

ACA 7 月例会のご案内

テーマ： 「知られざるパラリンピック」
～一人の脊髄損傷選手とともに歩んで～

講師： **荒井秀樹氏**

障害者ノルディックスキー日本チーム監督、

日立ソリューションズ スキー部監督

ゲスト：**長田弘幸氏**

障害：脊髄損傷・パラリンピック 4 大会連続出場・

日立ソリューションズ スキー部

<http://www.hitachi-solutions.co.jp/>

講演概要：

パラリンピックは「もう一つのオリンピック」呼ばれるのにふさわしい
世界最高峰の障害者スポーツ大会へと発展し夏季競技 20 競技、冬季競技
5 競技が行われています。

講師の荒井秀樹さんにパラリンピックの未来に向けての熱い想いを語って
いただきます。

紹介者：木村孝

講師 **荒井秀樹氏プロフィール：**

1955 年生まれ 北海道出身

江東区役所時代の 1995 年、当時の厚生省の要請により、長野パラリン
ピックへの選手発掘、指導、チーム立ち上げ、競技団体設立をゼロから始め
た。

すべてボランティアの活動であったが、日本代表監督として指導にあたり、
長野からのパラリンピック 4 大会連続でメダリストを輩出。

世界で勝つためには、選手やコーチの環境を変えなければならないことを
痛感する。

自らもプロの道を探り、日本で初めてのパラリンピック実業団チームを
2004 年に結成。

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程（平田竹男教授）でトップ
スポーツマネジメントと障がい者スポーツを研究し、これからのパラリ
ンピックスポーツの未来を探る。

現在は、パラリンピックノルディックスキー日本代表監督、国際障がい者
スポーツ連盟のノルディックスキー代表も努める。

ゲスト 長田弘幸氏プロフィール：

1963 年生まれ 北海道出身

21 歳、交通事故による脊髄損傷で腹部から下半身麻痺。30 歳から競技をスタートし、クロスカントリーの車いす対応のシットスキー第一人者。

当時、日本で普及していない中、単身ノルウェーへ渡り、本場のトレーニング方法や操作を学び、シットスキーを持ち帰った。

1998 年長野パラリンピックから 4 大会連続出場。1994 年ワールドカップ・カナダ大会で日本人初優勝し、荒井と二人三脚で、実業団チーム結成へ活動した。

今までに、右肩腱板断裂で手術、網膜剥離で右目失明などを乗り越えてきた、満身創痍の不屈のアスリート。

現在は、NPO 法人日本障がい者クロスカントリー協会副会長を務める。

以上

ACA 7 月例会のご案内

テーマ： 「知られざるパラリンピック」
～一人の脊髄損傷選手とともに歩んで～

講師： **荒井秀樹氏**

障害者ノルディックスキー日本チーム監督、

日立ソリューションズ スキー部監督

ゲスト： **長田弘幸氏**

障害： 脊髄損傷・パラリンピック 4 大会連続出場・

日立ソリューションズ スキー部

<http://www.hitachi-solutions.co.jp/>

講演概要：

パラリンピックは「もう一つのオリンピック」呼ばれるのにふさわしい
世界最高峰の障害者スポーツ大会へと発展し夏季競技 20 競技、冬季競技
5 競技が行われています。

講師の荒井秀樹さんにパラリンピックの未来に向けての熱い想いを語って
いただきます。

紹介者：木村孝

講師 **荒井秀樹氏プロフィール：**

1955 年生まれ 北海道出身

江東区役所時代の 1995 年、当時の厚生省の要請により、長野パラリン
ピックへの選手発掘、指導、チーム立ち上げ、競技団体設立をゼロから始め
た。

すべてボランティアの活動であったが、日本代表監督として指導にあたり、
長野からのパラリンピック 4 大会連続でメダリストを輩出。

世界で勝つためには、選手やコーチの環境を変えなければならないことを
痛感する。

自らもプロの道を探り、日本で初めてのパラリンピック実業団チームを
2004 年に結成。

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程（平田竹男教授）でトップ
スポーツマネジメントと障がい者スポーツを研究し、これからのパラリ
ンピックスポーツの未来を探る。

現在は、パラリンピックノルディックスキー日本代表監督、国際障がい者
スポーツ連盟のノルディックスキー代表も努める。

ゲスト 長田弘幸氏プロフィール：

1963 年生まれ 北海道出身

21 歳、交通事故による脊髄損傷で腹部から下半身麻痺。30 歳から競技をスタートし、クロスカントリーの車いす対応のシットスキー第一人者。

当時、日本で普及していない中、単身ノルウェーへ渡り、本場のトレーニング方法や操作を学び、シットスキーを持ち帰った。

1998 年長野パラリンピックから 4 大会連続出場。1994 年ワールドカップ・カナダ大会で日本人初優勝し、荒井と二人三脚で、実業団チーム結成へ活動した。

今までに、右肩腱板断裂で手術、網膜剥離で右目失明などを乗り越えてきた、満身創痍の不屈のアスリート。

現在は、NPO 法人日本障がい者クロスカントリー協会副会長を務める。

以上